地域に飛び出す公務員アウォード

２０１８事例集

あなたの活動が全国の自治体職員の光に！

地域に飛び出す公務員を応援する首長連合

目次

アウォード概要 3

[No. 1] 街の店主らとゼロから作った街歩き地図「前原歩帖」

【福岡県糸島市　井上　憲明】 4

[No.2] 「夢・志事塾（ゆめ・しごとじゅく）」による地域での人財創生

【三重県　山路　栄一】 5

[No.3]地元の戦国武将を通じて地域活性化を！

【高知県　筒井　加奈】 6

[No.4]Do for others～ふるさとに誇りのきっかけづくり

【富山県　加賀谷　辰夫】 7

[No.5]アルカディオンプロジェクト（南陽宣隊アルカディオン）

【山形県南陽市　HOPE（加藤由和，菅野雄三，小下圭介，加藤陽之，河合幸助，安部拓真）】 8

[No.6]福井市提案型勉強会！

【福井県福井市　西澤　公太】 9

[No.7]「近説遠来」～地域に惚れ込んだ住民主体による魅力発信団体結成～

【北海道石狩市　渡部　隆弘】 10

[No.8]元漫才師公務員の「お笑い行政講座」

【兵庫県尼崎市　江上昇，桂山智哉】 11

[No.9]須磨ユニバーサルビーチプロジェクトを全国に広める

【兵庫県神戸市　秋田　大介】 12

[No.10]環境教育で人づくり～森のようちえんでスウェーデンから講師来日～

【林野庁　大西　知芳】 13

[No.11]小学校育英会活動及びスポーツ少年団（学童野球）活動

【鳥取県　田中　純一】 14

[No.12]「ここ de やる ZONE」「Code for AICHI」

【愛知県岡崎市書田　浩一郎・中川　光・小川　貴之・野澤　成裕】 15

[No.13] 「花まつり」を北海道のイベントに！

【北海道東神楽町　鈴木　大介】 16

[No.14] 要約筆記を活用しよう！～新たなコミュニケーション手段の普及～

【鳥取県　矢部　薫】 17

[No.15] 街をサンタでいっぱいに！病気と闘う子供たちへプレゼントを贈る

【北海道更別村　小野寺　達弥】 18

[No.16]嘱託警察犬になってしまった愛犬，ジョイと伴に！

【長野県　細田　淳】 19

[No.17]子どもたちに大人気！波多野さんは「むし博士」！

【兵庫県朝来市　波多野　哲哉】 20

[No.18]福智王四十八隊（ふくちおうよとやたい）

【宮崎県木城町　中村　宏規】 21

[No.19]初開催！！播州織産地博覧会（略して「播博（ばんぱく）」）

【兵庫県西脇市　播州織産地博覧会実行委員会（遠藤　香里，有田　圭佑，板場　逸史）】 22

[No.20]東京の若者にふるさと鳥取の魅力を伝えたい！

【東京都　辻　堅太郎】 23

[No.21]静岡の自治会組織を第三者視点で支援「里山くらし LABO」

【静岡県　河村　将雄】 24

[No.22]都市型新スポーツ「バーチカルランニング」で地域を盛り上げる!

【愛知県　山肥田　徳文，平川　淳　愛知県名古屋市　寺田　隆彦】 25

[No.23]こども・地域食堂みんなのおうち

【奈良県生駒市　泉　昂佑】 26

[No.24]地元にある遊園地で参加無料のキッズダンスコンテストを開催

【奈良県生駒市　村田充弘，澤辺誠】 27

[No.25]刀都の鬼才･小説家「風羅 真」による日本刀のまちの地域活性化

【岐阜県関市　中島　真也】 28

アウォード概要

はじめに

公務員が自らの時間を活用して，地域づくり活動や，自治会，PTA，消防団，NPO 法人などの組織のなかで市民の皆さんと一緒になって，またときには自らがリーダーシップを発揮して活動し，このような思いを続けている人々がたくさんいます。

今回このように熱い思いで地域に飛び出し，住民と思いを共有しながら地域活動等で活躍している公務員を表彰する“飛び出す公務員アウォード”を実施します。

職場や家庭における役割に加え，プラスワンとして行う社会貢献活動等の優良な事例を称賛することで，このような活動をより多くの人に知ってもらい，関心を持ってもらい，活動しやすい職場環境づくり，地域に飛び出す職員を増やし，自治体の組織風土改革のきっかけになることを期待しています。

応募資格

社会貢献活動，地域づくり活動，自治会，PTA，消防団，NPO 法人などの活動に取り組んでいる公務員（他の組織への出向者を含む）。自薦，他薦または首長連合加盟首長からの推薦も歓迎。但し，他薦の場合は被推薦者の同意を得てください。

応募要件

- 平成 30 年 11 月 17 日（土）に岐阜県飛騨市で開催される首長サミットでの発表（15 分程度）が可能であること（録画動画による発表も可）。
- 応募資料を 1 次審査のために公開すること及び事例集として取りまとめてホームページ等で公開することに同意すること。

選考方法

（1） 選考プロセス

（2） 選考基準

- 加盟首長が話を聞いてみたい飛び公を選出。

主催

地域に飛び出す公務員を応援する首長連合

協力

飛騨市

[No. 1] 街の店主らとゼロから作った街歩き地図「前原歩帖」

【福岡県糸島市　井上　憲明】

中心市街地の認知拡大を目的に，3店主と井上氏でチームを結成。街歩き地図『前原歩帖』を2017年10月に製作した。昔と今を対照しながら，息づくスポットを旅人目線で紹介し，挿絵は市内画家に依頼するなど地域性が高い。井上氏は勤務外で市民として活動し，会議や街散策を重ね，制作費も寄附を募り実現。SNSで生きた情報も連載し，「マップで応募！第2回地方創生大賞」で入賞するなど積極的に情報発信を続けている。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

街歩き地図「前原歩帖」

毎年多くの観光客で賑わいを見せる福岡県糸島市。その糸島市の中心地にありながら，観光による来店と回遊が少ない前原エリア。
ＪＲ筑前前原駅から歩いて回れる距離にあり，江戸時代は唐津街道前原宿として栄え，よく見ると魅力的な場所や，個性的な飲食店やカフェ，雑貨屋などが狭い範囲に点在している。
この前原を広く知ってもらい，糸島に遊びに来るついでに前原へ立ち寄ってほしい。
次に行く場所，次に行く店を案内できる道具が欲しい，「街歩きの地図があれば」という想いから，地図を作るべく，前原で営業する古民家食事処，雑貨店，アウトドア用品店の店主らとチームを結成した。
ほぼ毎月，店舗営業が終わってからメンバーで集まり，膝を突き合わせて地図作りを進め，前原の往時の名残と，今息づく活気ある地点を，旅人目線で取り上げることに腐心し，前原の街歩き地図『前原歩帖』（まえばるほちょう）が完成した。
その後，街のイベントでマップの配布を開始。街歩きツアーでの活用や，前原歩帖のアカウント名でSNSを運営。地図に固定した街情報と併せて日常の情報を発信しており，エリア内で旅人に楽しんでもらう実践フェーズに入っている。

イベント「シニング」で配布されるマップ

アピールポイント

(1)成果・効果
・2017年10月に地図完成後，3,000部，10,000部と増刷。観光協会では街案内のツールとして活用されている。
・マップは2018年6月「マップで応募！第2回地方創生大賞」で入賞。全国200点超の街歩き地図の中から同率3位となった。
・街の主な店舗に設置してもらい，来店者が気軽に手に取れるようにしている。
(2)チャレンジ性
・商工担当職員でさえ活性化に頭を悩ませる商店街地域に単身飛び込んでいったこと。
・店主らと独自のネットワークで信頼関係を築き，それぞれが思っていた地域課題を共通認識させ，解決のためのチームを結成した。
・活動のスピード感と自由度を上げるため，補助金に頼らず，チームの自主活動とした。
・自主活動でありながら，市職員に寄付を募るなど，他の職員がやったことがないことに取り組んだ。
(3)協働性
・地図エリア内の次代を担う若手店主らと一緒に活動している。
・市職員というポジションを使い，繋ぎ役として市役所・商店街地域・観光協会を連携させ，それぞれからマップをPRさせた。
・メンバーの一人が主催する"山を守る発信をする"街ナカイベント「シニング（間伐）」の会場でもマップを配布し，街歩きを促進させた。
・活動にあたって，店主らを街の主人公とするため，本人は徹底的に黒子に徹している。
(4)持続性
・これまで三刷発行。そのたびに内容を刷新している。
・地図に加えてSNSで新鮮な街情報を継続発信し，フォロワーを増やしている。
・福岡で週40万部発行されるフリーペーパーのweb版でコラム連載も行っている。
・糸島市のホームページでpdf版データが閲覧できるほか，市が英語版糸島市ガイドブックを作成した際にマップを掲載し，さらに電子ブック化。マップの存在が永続的となっている。

地図製作メンバーの店主ら三人

[No.2]「夢・志事塾（ゆめ・しごとじゅく）」による地域での人財創生

【三重県　山路　栄一】

平成 21 年から地域の活性化，次世代を担う人財の創生等を目的に，プラス・ワンの活動をしてきた「うれし野塾」を平成 30 年 5 月 12 日に「夢・志事塾」と改め，明日の地域や日本の発展を担う人財を創生する場とし，次の活動を行っています。

・首長，学識者，企業経営者を講師にセミナーと交流会
・講演とグループディスカッションを中心とする合宿研修
・活動の成果を報告する総会，成果報告会，交流会

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

設立総会発起人挨拶

現在，地域や国には政治，経済，行政などあらゆる分野で課題が山積しており，それらの多くは，一個人や一企業で解決することが困難なものです。

これらの難題に対して，Why should I？（何故私が）ではなく，Why shouldn't I？（私がやらずに誰がやる）という，「フォア・ザ・パブリックの気概」で，地域や組織を超えて，プロアクティブに「志事」する，「ファースト・ペンギン」のような，「皿を割ることを恐れない」，「アクティブに行動する人財」を創生し，「100 年後も輝く日本」を創出するための塾を設立したいと考えました。

地域が栄えるのも，衰えるのも，国が興るのも，滅びるのもことごとく人にあります。

幕末に吉田松陰が立ち上げ，高杉晋作，木戸孝允，久坂玄瑞などの長州藩士のみならず藩を超えて坂本竜馬など維新を達成するあまたの人財を輩出した「松下村塾」のように，三重の地から「日本をせんたく」するための人財を創生し，世界の中でひときわ輝く日本を創造したいと願い，「夢・志事塾」を設立し，地域の発展に努め，日本の繁栄に貢献しています。

アピールポイント

設立記念講演会

(1)成果・効果

セミナー等で単に講師の話を聞くだけではなく，普段交流する機会の少ない異分野の会員同士が交流することにより，新たなビジネスのきっかけが生まれたり，県の事業を企業等に PR し，応募につながったりしています。また，塾設立の記事を地域に飛び出す公務員ネットワークのメーリングリストで共有したところ，宮崎県庁職員から同様の取組をしたいとの希望をいただくなど共感の動きが拡がっています。

(2)チャレンジ性

著名な講師によるセミナー開催の機会が少ない地方でそうした機会を提供することで，仕事にプラスして地域や職を超えて一歩踏み出す「志事」をするプロアクティブな人財を創生し，地域の発展につながっています。

(3)協働性

顧問，アドバイザーを首長，企業経営者，学識者で構成し，事務局，スタッフを民間企業社員と自治体職員が担い，入塾者も産学官から参加していることで，垣根を超えた協働が生まれています。

(4)持続性

自治体首長（津市長，四日市市長，伊勢市長，松阪市長，桑名市長，鈴鹿市長，菰野町長），企業経営者，学識者（三重大学長，四日市大学長）からなる顧問と，コンサルタントと学識者によるアドバイザーで構成する経営会議で経営方針や事業計画等を協議しているので塾生の要望に即した内容となっており，継続の可能性が高い活動となっています。

交流会知事挨拶

[No.3]地元の戦国武将を通じて地域活性化を！

【高知県　筒井　加奈】

地元の戦国武将や関連史跡をもっと多くの方に知ってもらいたい，それを活用して地域を盛り上げたいと，大河ドラマ化の署名活動，史跡での勉強会の開催や，関連行事内での自主企画イベントの主催，*SNS* での積極的な情報発信をしています。
今年，「歴史って難しい」というイメージを払拭するため，戦国武将をテーマにしたよさこいチームを立ち上げ，老若男女が武将を中心に楽しく集える場を作り，よさこい祭りに出場します。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

浦戸城を学ぶイベントを開催

6 年前，元々戦国時代が好きで，長宗我部氏を通じて，地域を盛り上げたいと思い「長宗我部ファンクラブ(現長宗我部会）」に入会しました。当初は会則がない，会費は集めるが会報誌は発刊していない，総会の資料もない，会計事務も方法が間違っていたりと，会としての体をなしていない状況でした。
　一般会員でしたが，自ら作成を申し出て年 2 回の会報誌，会則，総会資料の作成を行いました。3 年前に事務局長に就任し，会計事務の改善，若い人々への発信力も強めたいと思っていたので，Twitter アカウントを開設，資金確保のため，まちづくりファンドへの応募や，手作りのアクセサリーも作りました。
　年々活動が活性化し，「長宗我部氏を通じて地域活性化に寄与したい」という思いと，さまざまなスキルを持ったメンバーが増えてきて，出来る活動も広がってきました。昨年度は「長宗我部アイデアソン」と題して，長宗我部氏を地元で盛り上げるための方策を考える会も開催しました。
　今年度はよさこいチームも立ち上げました。高知市まちづくりファンドの 30 万のコースにも採択され，歴史資源を活かしたまちづくりに，さらに積極的に取り組んでいきます。

長宗我部を知ってもらう方策を考える
長宗我部アイデアソンを開催

アピールポイント

(1)成果・効果
【成果】
①大河ドラマ署名数 8,247 筆
②地元のラジオ出演 2 回
③個別の声かけや SNS を積極的に活用するなどした結果，平成 28 年度に比べ，会員数が 2 倍以上に増加（18 名⇒44 名）
④3 年連続で高知市まちづくりファンドの助成事業に採択された
【効果】
①facebook と twiteer でのユーザーの反応の違いなど，広報活動に関する経験が課の広報業務に役立っている。
②自ら企画した行事，事業内容を担当者を割り振って進めていく経験は，業務遂行の上で役立っている。
(2)チャレンジ性
①よさこいチームの立ち上げにあたり，主担当としてクラウドファンディングに挑戦し，成功した。
②資金確保のため，自ら手作りのアクセサリーを作り，イベントで販売。人気を博した。
③長宗我部まつりでは，当会が企画したイベント「戦国仮装」を盛り上げるため，自らゲームのキャラクターのコスプレ衣装を作成，着用してまつりを盛り上げた。
(3)協働性
　会員には観光業界にいる人，保険事業を扱う人，人脈がとにかく広い人，イラストレーターが使える人等がおり，それぞれがその知識，人脈を活かし，例えばバスの手配，よさこいの資金確保，スポーツ・レジャー保険の加入，パンフレットの作成など分担して業務を担っている。
　また，今年度から会報誌を関係団体，協力団体に送ることとし，個人としてではなく，組織としての繋がりを強めることを心がけている。
(4)持続性
①事務を担える人材を自分以外にも育てるため，部会制に移行し，極力部会長に会内での連絡調整や企画などをになってもらう体制とした。
②主な活動経費は会員からの年会費なので，継続的な資金確保に会員数の維持，増加を図っている。
③当面の資金確保のため，高知市まちづくりファンドに応募，採択された。活用にあたっては，ファンドがなくなったら活動出来なくなるということを避けるため，資金がなくても継続していける，未来につながるような計画を意識した。

資金確保のため、自ら作成したアクセサリーを販売

[No.4]Do for others～ふるさとに誇りのきっかけづくり

【富山県　加賀谷　辰夫】

仕事とは別の２枚目の名刺を持ち，地域の魅力に誇りや自信，愛着を持てるよう講演するほか，受講者が更に講師となる取組を県民カレッジ自遊塾で実践。世界遺産の棚田コーリャク隊員として，伝統野菜の赤カブや世界遺産米のボランティア活動。市総合計画策定など委員として参画。大学富山校友代表，同窓会副支部長，保証人会副会長等の顔もあり，就職相談会や卒論審査担当。新聞寄稿や，ふるさとの魅力を文学として発表する大学院生

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

他者のために、自分ならではの言葉で、熱い想いを伝える

・昭和 62 年，就職後すぐ同窓会活動等に参加(県校友代表等。都内で就職相談・面接，卒論審査)
・平成３年，20 代で父が他界し，集落の絆や支え合いを実感し，評論家や傍観者ではなく，現場重視の行動人として，町内会はじめ地域活動など実践
・19 年に中山間地域の活性化指針策定をきっかけに，ふるさと子ども夢学校(農水・総務・文科省の子どもプロジェクト)の名づけ親となり，世界遺産五箇山の棚田ボランティア活動に家族と関わる
・10 年から北陸新幹線建設促進運動や薬業振興を担当し，22 年からふるさとの誇りを伝える講演(富山の DNA である薬，富山の魅力，御朱印等)し，26 年から受講者を知のおもてなしができる講師に育てる講義を，県民教授として実施
・22 年から県報を担当し，書く聴く話すことを通じ，四季のふるさと文学を綴る(共著６冊)
・人事異動で仕事をリセットせず，公と民，双方理解できるので，市の一委員(地方創生，行政改革，社会教育施設統合等)として参画
・新聞，ラジオなどマスコミに取り上げていただき，ふるさと意識が高まり，輪が広がる(22 年～新聞投稿 112 件)
・前回予選落ちしたが「飛び公」を新聞で周知活動

中山間地域で支え合い、農ある暮らしで収穫を喜ぶ

アピールポイント

(1)成果・効果
・22 年から学校や生涯学習等での講演や，通年講義(2h×7 回×5 年目)を通じ，知のおもてなしやふるさとの魅力の気づき・再認識などの一助になる
・26 年，ご当地検定「越中チャレンジ」上位合格者からなる「とやまふるさとの会」を共同で設立し，ふるさとに熱い講師の講演技術向上
・世界遺産の菅沼合掌集落では数十年耕作されていなかった農地に赤カブを育て，現在チューリップ畑に生まれ変わる
・25 年，飛び公経験が難航用地交渉に大いに役立つ(公営企業管理者表彰)
・「飛び公」の言葉の認知度アップ
(2)チャレンジ性
・県民が講師となるユニークな通年講座講師に現職公務員は希有，招聘が難しい外部専門講師(製薬会社取締役，神社仏閣精通者など)を招くなど精力的活動により深い情報交換
・27 年，市議会に地域の誇りに関する陳情者提出，全会一致で採択
・21 年から大学生の最優秀論文を選定するため，推薦された政治分野の論文を熟読し，審査会に出席する公務員は珍しい
(3)協働性
・棚田の価値観等を後世に伝える取組では，農業公社や多世代のボランティア，ふるさとの活動では，依頼者や受講者，同窓会や保証人会の活動では大学や役員，市への参画では各種団体など様々な方と関わるとともに，マスコミの皆さんとも協力，支援をいただく
・県内文化人の一人として，知事など 300 人出席する新年懇親会などで更なる理解を求める

マスコミで取り上げていただき接点のなかった人との輪が広がる

(4)持続性
仕事・ふるさと・妻をはじめ家族を愛し，人や本との出会いが豊かな人生に不可欠と考えており，上司や同僚の理解や協力を得ながら，活動を継続し，飛び公のロールモデルを目指す。私の地域活動は知事や議員も理解。
地域振興，生きがい，人不足など様々な切り口があり，期待の大きさを実感するので，理解者や協力者を増やし，人の結び付きを広げる。ふるさとへの熱い想いを評論家や傍観者でなく行動で示し，今春から時間や費用を要するが大学院で学び，終了後は成果を地域に還元したい

[No.5]アルカディオンプロジェクト（南陽宣隊アルカディオン）

【山形県南陽市　HOPE（加藤由和，菅野雄三，小下圭介，加藤陽之，河合幸助，安部拓真）】

南陽宣隊アルカディオンは，南陽市の公式に限りなく近い非公式ご当地ヒーローとして，南陽市の賑わいづくりと市内外への*PR*，子ども達の郷土愛醸成を目的に活動。人と人との「交流」による地域活性化を目指し，地域・幼保施設・高齢者施設・企業イベントでのショー出演をはじめ，単独交流イベントの開催，*WEB* や *SNS* を使った南陽市*PR*，オリジナルグッズの開発・販売，企業と共同での商品開発などを展開中。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

南陽宣隊アルカディオン集合写真

表彰対象者が所属する「HOPE」は，市主催のまちづくり講座をきっかけに 2008 年に誕生。公務員の他，会社員，農業経営，自営業に就く 20～30 代の男女 24 名が所属する。

「人がいない，魅力がない，活気がない」といった地域課題の改善を目指し「人と人，人と地域の交流」をテーマに活動をスタート。当初は交流イベントの開催を企画したが，話し合いを重ねる中で仲間と同じ目的・時間を共有すること自体に面白味を感じ始めたことから，既存事業を活かしつつ，事業参加者が一体感を得られ，また自分たちが楽しめるものを目指したのが「南陽宣隊アルカディオンプロジェクト」となる。

市内 8 地区 8 人のヒーローを目標とするも，資金ゼロからのスタートのため，1 人目はメンバーの自腹で製作。市や県の助成金を獲得する一方，出演謝金やグッズ販売料を得て，ほぼ年に 1 人のペースで着々と増殖。登場キャラクター（特に悪役）の設定が大人にもうけ，広く親しまれていった。

認知度が高まった 3 年目以降は，親子ワークショップ，他ヒーローとのコラボ事業，菓子店とのコラボ商品なども企画。今年 10 月，満を持して 8 人目のヒーローが登場する。

子ども達とふれあうアルカディオン

アピールポイント

(1)成果・効果

アルカディオンは 2009 年の登場から徐々に認知度が高まり，現在，年間約 30 件の出演依頼を受けている。その内 7 割がリピーターとなっており，賑わいづくりのツールとして安定した人気を得ている。またアルカディオンを活用した啓発ポスターやグッズの依頼も寄せられ，市内の新入学児童全員にアルカディオンのイラストを配したランドセルカバーが配られるなど，ご当地ヒーローとして市民に親しんでいただいている。活動を通し，地域や団体代表の方，幼保施設や学校の先生方，マスコミ関係者，市外県外のまちづくり実践者など，公務に活かせる広い人脈と学びを得ることができている。

(2)チャレンジ性

ご当地ヒーロー自体はありふれたアイデアだが，変身マスクとスーツは完全オリジナル。値段は高いが，簡易の変身グッズで済ませるヒーローが多い中，質を高めたことで差別化が図られ，結果的に評価も高まった。ブーツについては市内の革靴メーカーから提供を受けたが，そのことを知った県外のヒーローからメーカーに注文が届くなどの反響もあった。

(3)協働性

本活動は公務員以外の同志と一緒に立ち上げ，運営している。また活動が既存イベントとの連携を前提とするため，必然的に多様な地域・団体・企業等と協働での活動となっている。

(4)持続性

当初から持続的な活動を目標としており，特に運営資金の確保と活動の自立（自律）性を重視。運営資金については，出演時に協力金をいただくことで資金の安定を実現。またピーク時には年間 40 件を超える依頼が寄せられたことを受け，出演シフトを改良，イベントに出続ける疲弊感の解消と活動へのモチベーションを確保した。またあえて行政の枠組みに属さないことで，自由なアイデアと活動を担保し（それ故に非公式），自分たちが楽しめる活動づくりを続けている。行政からはこれらの主旨を理解いただいた上で，様々な協働事業の提案をいただき，市民にも南陽市のキャラクターとして認知していただくことができた。

子ども達の交通安全を守る
ランドセルカバー

[No.6]福井市提案型勉強会！

【福井県福井市　西澤　公太】

福井市役所職員が，まちおこしに関する事業に関わりながら，市全体の活性化はもとより，市役所職員としてより良いキャリアを形成することを目的とした活動を行っています。具体的には，地域の祭り等の支援・協力や，公務員志望の学生を対象とした自治体を超えた意見交換会，および自治体の課題を解決するために市職員と他業種と連携した事業を生み出す場を提供している。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

稼げる地域活動（チームモアイとして、地域の方々と連携）

活動に参加したきっかけは，同期からの輪読会の誘いでした。自治体職員に役に立つ本を読んで感想を言い合うという内容のものでしたが，意見交換などを市役所職員同士で繰り返すうちに，段々とマンネリ化していきました。

そこで，本を読んでいるだけではまちは変わらない。より実践的な学びの場を自ら作りたいと思い，グループの名を「福井市勉強会」から「福井市提案型勉強会」に変えました。提案とは，地域や職場，そして参加する公務員自身に問いを投げかけるという意味が込められています。

まず最初に取り組んだのは，市役所職員とタッグを組んで地域のまちづくり活動で収入を確保し，自立的に運営できる取り組みを育てることです。結果，地域の伝承料理を現代風の味付けにしたものを販売したり，中学生考案のイメージキャラクターを活用した地域活動参加ポイント制を導入するなどして，自立した地域活動のサポートを行っています。

30,40 代の提案から実施される活動が多いので，今後は 20 代メンバーが中心となった活動や，気軽に若手職員が仕事以外の活動として，試験的に実践できる場を作り続けていくことが課題です。

アピールポイント

公務員と公務員を語ろうin福井（自治体職員同士の連携）

(1)成果・効果

地域活動を行う上で補助金に頼らない，自立した地域活動を促進することができている。また，市の施策としては実施していないものの，試験的に地域内で社会実験を行うことで，地域のニーズと施策のミスマッチを防ぐ。

加えて，このグループに加入することで，普段仕事で感じた素朴な疑問を相談しあったり，他部署の事業について SNS 上で質問したりするなど，市職員の知識を普段から共有できる体制を整えることで，職員同士のネットワークをより強固にしている。

(2)チャレンジ性

これまで，担当部署とその業務に関わる地域の方々との交流はあったが，部署を超えて市役所職員が地域に入り込んで活動しているケースは珍しい。また，「空き家」「稼げる地域活動」「市職員の兼業のあり方」「新たな自治体の財源確保施策」など，個人ではなかなか取り組めない重要な課題について，市の施策で足りない部分を他業種の方々と連携しながら，社会実験を行っている。

(3)協働性

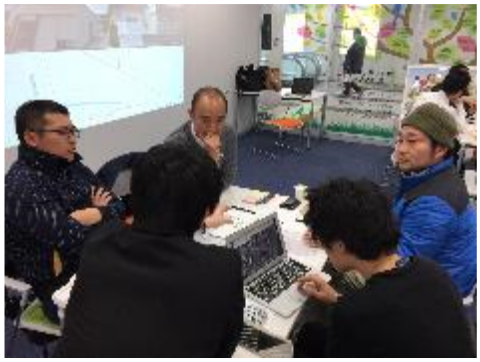
地域の方々と事業を実施する際に，お互いの得意分野を活かした活動を行っています。例えば，地域の方々は地域内の情報伝達や協力できる仲間を集める一方で，市役所職員は会議録の作成や予算表などの作成を行っている。

また，実際の空き家に対し，他業種の方にも参加してもらい，リノベーションのプレゼンを行うといった形で，今後の官民連携を行う上で必要なネットワークの形成にも寄与している。

(4)持続性

定期的に意見交換会（という名の飲み会）を実施することで，勉強会メンバーが新しい職員を連れてくるなど，メンバーが参加しやすい雰囲気がある。法人化せず会費なども無いことから，活動への強制力はなく，参加者にはメリットが多い。

また，定期的に外部講師として民間の事業者と意見交換を行う機会を持つことで，自治体職員としてのスキルアップできることを売りに，新規会員が本団体に興味を持つきっかけ作りを行っている。



空き家マッチングスクール（他業種との連携）

[No.7]「近説遠来」～地域に惚れ込んだ住民主体による魅力発信団体結成～

【北海道石狩市　渡部　隆弘】

自身が生まれ育ち，現在奉職している地域の魅力を地域内外に広く発信する事を目的に，地域愛に溢れる住民による任意団体を平成 24 年 3 月に組織しました。住民視点による地域のお薦め情報を集めた小冊子の作成，SNS による情報発信，地場産品の PR や直売等を手掛けると共に，地域の売り出し中の豚肉のブランド化に向けた商品開発も手掛け，地域内外のイベントでの販売などを通じた地場産品の PR にも積極的に取り組んでいます。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

厚田こだわり隊員集合写真

平成 17 年の合併により旧厚田村は現在の石狩市となりましたが，区内の人口減少や高齢化など地域の活力低下が顕著となってきていました。

そういった情勢を受け，厚田区が大好きな住民等が自分達のペースで自分達の地域の魅力を発信したいとの想いから，平成 24 年 3 月に「厚田こだわり隊」を設立するとともに，事務局長として主に下記の活動に取り組んでいます。

・平成 25 年より区内の空き店舗及び駐車場を借りて直売所を開設，地物野菜や果物などの販売を，これまでに 120 回以上実施。
・区内や石狩市内，さらには札幌市内のイベントや催事に，これまで 100 回以上出店。
・SNS を活用した厚田の旬な情報を発信。
・区内の小さな情報誌「あった！」を発刊。
・平成 30 年に区内の聚富小中学校において，地元の子供達への食育をテーマにした出前講座を実施，聚富中学生と連携した地元直売所での「厚田のぶたまん」の PR，さらには都内アンテナショップでの PR を実施。
・江別市にある札幌学院大学のインターン生を平成 25 年度から毎年 20 名程度受入れ，学生とともに地域イベントの盛り上げ，さらには地域住民と学生とのコーディネートを実施。

アピールポイント

(1)成果・効果

疲弊する地域の魅力発信に向け，団体としての主な成果は次のとおりです。

上述したとおり，これらの活動を事務局長として陣頭指揮にあたっており，こうした経験が担当業務である市内の商工業振興に役立っています。特に市内外の多様な団体や人材とパイプを築くことができており，円滑な業務の推進に役立っています。

【商品開発】
・豚丼のたれ：約 2,000ℓ 製造
・ぶたまん：約 20,000 個製造，販売
・フランクフルト：約 3,000 本製造，販売
【SNS】
・閲覧数：約 65 万件
【小冊子】
・発行部数：約 45,000 部（うち英語版：5,000 部）

厚田こだわり隊による地域と大学とのコーディネート

地域イベントにおける地場産品プロモーション

(2)チャレンジ性

地域の PR 活動のみに止まらず，団体として地域食材を活用した新たな商品開発にもチャレンジしています。これまでに，「豚丼のタレ」，地元のブランド豚『望来豚』を活用した「厚田のぶたまん」，「厚田のフランクフルト」，地元 JA 北いしかり女性部と連携した地元産小豆を活用した「厚田のあんまん」を相次いで開発し，今年開業した市内の道の駅や催事などで地場産品の PR に努めています。現在，「望来豚焼売」，「望来豚汁」の開発にも取り組んでいます。

(3)協働性

地元農業者や漁業者，飲食店，加工事業者，建設業者，地域おこし協力隊，自治体職員など広く地域住民を巻き込んだ活動を展開しており，平成 30 年 3 月時点で 34 人が参画しています。

また，地域の関係人口創出を目指し，近隣の大学とも連携し，地域のお祭りのサポート役として大学生を受け入れるコーディネーターとしての役割も担っています。

(4)持続性

厚田区内のみの PR 活動に止まらず，現在では自治体事業へのサポート（Ex：市内小中学生への食育支援）など市内全域に広がる，団体の活動に係る認知度，貢献度が大きくなってきており，期待度も高まってきています。団体構成員もこういった流れを受け，積極的かつ能動的に活動を展開しており，事務局長として今後も継続的に活動に取り組みます。

[No.8]元漫才師公務員の「お笑い行政講座」

【兵庫県尼崎市　江上昇，桂山智哉】

元漫才師の尼崎市職員２名で結成。難しい行政テーマをお笑いでわかりやすく伝える，等の活動を通じて，まちの魅力の発信や PR に努めている。「公務員の価値観を変える」「公務員のアクションを変える」「公務員のイメージを変える」をミッションに地域や学校等で出前講座を開催する他，市主催事業にも登場し，障害のある方との漫才や「シチズンシップ」「施政方針」等も題材にする。これまで約 70 回公演，4,000 人超を動員。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

まこと･のぼる（聴覚障害のある方との漫才）

平成 18 年に江上が尼崎市奉職。採用後は内部管理業務が続き，本望であった地域活動に職務として関われない中，「仕事で地域と関われないならプライベートで関われば良い」と自主研修グループ「夜カツ」を立ち上げ，勉強会や地域と関わる活動を進めてきた。
平成 26 年に桂山が入庁し，「夜カツ」に加入。その後，職員研修で「お笑い」をテーマにしたまちのブランディングを研究する中で，自ら実践する形で活動をスタート。
その後，平成 29 年１月，新聞で大きく紹介されて以降，テレビ出演や様々な団体からの依頼が増加。
折しも本市が「地域型職員の育成」を掲げた時期とも重なり，笑いを通じて地域と接点を持ち，また公務員のイメージや行動も変えて行く，というミッションの通り，市の目指す方向性にも沿って取り組みを進めている。
引き合いも増え続け，市の担当課からの依頼で，障害福祉やシチズンシップ，健康といった様々なテーマで市主催事業に出演し，行政のテーマを市民に身近なものとして届ける橋渡しを務めている。
これまでのメディア出演は，読売新聞，毎日放送「ちちんぷいぷい」，サンテレビ「NEWS PORT」，毎日新聞など。

アピールポイント

お笑い行政講座の様子

(1)成果・効果
これまでに約 70 回開催，4,000 人超を動員し，尼崎市の魅力の発信や，知ってほしい行政のテーマをわかりやすく伝える公演等を行った。加えて，テレビや新聞でも活動が報道され，「公務員」や「尼崎市」についての良好なイメージの発信につなげている。
(2)チャレンジ性
「市職員が漫才で行政のテーマを伝える」という活動自体が挑戦的な試みであるが，そこからさらに「笑い」と「行政」が解決できる社会課題を常に模索している。
例えば福祉イベントでの「聴覚障害のある方との漫才」では，障害自体を笑いに変えることで，障害を個性と捉え，心のバリアフリーとして定義し直すアプローチを行なっている。その他，学校等への出前授業では，日常のコミュニケーション能力を，笑いの手法を用いて向上させる講義を行っている。また，市の担当課からの依頼で，シチズンシップや男女共同など，広く周知を図りたい行政のテーマについて，お笑いを使って関心を持ちやすい形で紹介しているほか，本年６月には「尼崎市施政方針」を漫才化するなど，取り上げるテーマの幅を広げ続けている。
(3)協働性
町会・自治会に招かれての公演も多く，市民と公務員の交流・協働の一端を担っている。また，その際，漫才の中に市の魅力や，行政から市民の皆様にお伝えしたいこと等を盛り込んでおり，お笑い行政講座が行政と市民との橋渡しを担っている。
市民と行政が協働で作り上げるイベントにもプライベートな立場で参加し，「地域に飛び出す」を体現している。
(4)持続性
公演は基本的に土日・夜間等に，業務時間外の活動として実施している。担当業務や家庭との調整もあり，全てを２人で対応することは難しいことから，どちらか１人でも公演できるフォーマットを構築している。また，「元漫才師」以外のメンバーとの組み合わせでも公演できるパッケージも整備しており，柔軟な組み合わせで出演することで，サステナビリティを確保している。（運営メンバーは現在 15 名）

小学校での「漫才の授業」

[No.9]須磨ユニバーサルビーチプロジェクトを全国に広める

【兵庫県神戸市　秋田　大介】

障がい者の「できない」を「できた！」に変えるプロジェクト。
関西随一のビーチを拠点に，車椅子ユーザーを始め，どんな人でも海を楽しめるユニバーサルな環境を整えようという活動。
車椅子でも砂浜を走行できるビーチマットと，水陸両用車椅子ヒッポキャンプを資金調達して購入し，多様な関係者やボランティアをたくさん巻き込んで環境を整備している。
海だけでなく田畑，山，牧場などにも順次活動範囲を拡大している。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

みんなでつくるユニバーサルビーチ

もともと神戸市職員としての知見を活かして，市民活動家などが神戸のため市民のために行う活動をサポートすることをライフワークとしている。
当該 NPO の代表である車椅子ユーザーの木戸が，海外で出会ったユニバーサルビーチに感動し，出身地の神戸で実現させたいと考えた。
彼の想いへの賛同者から次々に協力依頼が来たことがきっかけで木戸と出会い，多様なジャンルの協力者たちと共にプロジェクトチームを立ち上げた。
活動が初期段階であったこと，行政管理の厳しい公共空間での活動であったこと，また障がい者を対象としているためリスクがあることや，そもそも信頼できる活動団体になる必要があった。
そのため公務員の持つ信頼度やネットワークを活用し，クラウドファンディングでの資金調達やスポンサー探し，行政との折衝，そして現場監理などを担当し，活動の中心となってサポートしてきた。
最初の海水浴シーズンを大盛況で終えた後，NPO 法人となり，その際に副理事長となった。
2 年目の海水浴シーズンは神戸市から障がい者対応施設の管理も任されることになり，行政と協力して誰でも楽しめるユニバーサルビーチの確立に取り組んでいる。

アピールポイント

ビーチマットと水陸両用車椅子ヒッポキャンプ

(1)成果・効果
車椅子ユーザーにとって，「どうせできない」と思われていた砂浜や海に入ることを「できた！」に変える機会を作れた。この体験をきっかけに障がい者の方たちが新しいチャレンジをしようと思えるようになった。
公務員の知見を活かして管理運営の調整や資金・人材調達を行い，また行政との調整を担うことでスムーズに協力体制を築くことができた。
(2)チャレンジ性
日本の海水浴場でビーチマットと水陸両用車椅子をセットで導入した初めての取組であり，新たなチャレンジの連続である。
首から下が一切動かせない方，気管切開をしている子ども，足が悪くなった高齢者，脳性まひの兄弟などなど。
こられる方に併せてライフセーバー，看護士，理学療法士，消防士などと皆で対応策を話し合いながら丁寧に対応している。
活動も海から飛び出し，山登り，畑の収穫，スキー，サーフィンなど様々な分野に応用し，障がい者の方たちと共にチャレンジを続けている。
(3)協働性
スタートアップメンバーは 12 人の有志。メンバーは，障がい者・ライフセーバー・サラリーマン・海の家オーナー・公務員・看護師・医師・報道関係者など。それぞれの立場・特性を活かしてこのプロジェクトを実現まで漕ぎ着けた。
また資金調達にクラウドファンディングを活用し，地域住民や大学生・高校生，ビーチに関連して活動している方，障害者支援団体などからたくさんのご協力を頂いた。
SNS やメディアでこの活動を知り，利用者やボランティアが毎回のように増えている。
(4)持続性
活動のスタートはクラウドファンディングや寄付金などで資金調達を行ったが，最初の海水浴シーズンを終えてから，賛助企業や賛助会員の仕組みを作り，財団と協力することで資金面の持続性をあげ，スタッフへの実費の補填なども整いつつある。
今シーズンからはビーチに新設された障がい者対応施設の管理の一部を受託することができ，持続的にこのビーチで活動する準備が整ってきた。

障がい者もその家族も健常者も
みんなで楽しむ海水浴

[No.10]環境教育で人づくり～森のようちえんでスウェーデンから講師来日～

【林野庁　大西　知芳】

職務とボランティア活動の両面で実施してきた環境教育活動を展開するためネットワーク団体を設立。順調に事業を展開するも事業が目的化したため，人のやる気を奮い立たせ，背中を押す「そそのかし屋」にシフトチェンジ。熱心な森のようちえんの皆さんとの出会いはスウェーデンから講師を招くまでに発展。思いを形にするために必要な人と人とをつなぎ，時には一緒に参画して「人・自然・地域を愛する人づくり」を目指しています。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

スウェーデンの自然学校の
取組について講演会を開催

職務を通じて実施してきた森林環境教育活動を自身の地元に広げるため，京都森林インストラクター会に所属して活動を開始。様々な研修に参加するうちに環境教育全般の分野に活動範囲を拡大。環境問題を解決するためには人づくりが大切なことから，基本コンセプトを「人・自然・地域を愛する人づくり」として平成 24 年 6 月に京都やましろ環境教育ネットワークを有志と設立。人材育成事業や出張教室，ネットワーク交流事業（やま環カフェ）に加え府立公園での環境教育事業を受託するまでに至ったが，事業実施に奔走し，本来の目的を見失いがちになったため，事業は構成団体に任せ，ネットワークの強みを活かして人と人をつなぐことへシフトチェンジ。同時に熱心な森のようちえんの皆さんと出会い，幼児期の自然体験の大切さと取り巻く保護者のネットワークの強みに感動。森のようちえん活動を後押しするため講演会や勉強会を企画したところ，スウェーデンから講師を招くまでに発展。熱意のある人を「そそのかし」，人と人をつないで「思いを形にする」お手伝いをしつつ，時にプロジェクトに参画しながら「人・自然・地域を愛する人づくり」の実現を目指している。

えんたくんを使ったきづがわ交流カフェ

アピールポイント

(1)成果・効果

ネットワーク交流や事業の企画から様々な方との縁が深まり，人と人をつなぐノウハウが蓄積できた。その結果，市役所の環境担当者と環境活動家をつなぐ交流カフェから環境教育講演会という協働事業に発展，マンネリ化した環境教育ミーティングに人材を送り込んで立て直しを図り，行政とＮＰＯをつなぐことに腐心している人と協働して日本最大の環境教育ミーティングでワークショップを開催。そして熱心な森のようちえん実践者の皆さんと出会い，その活動をさらに発展させるために勉強会，安全講習会等を企画。その思いは市役所と協働してスウェーデンから講師を招き，「野外で算数」のプログラム講習へ発展。また，関わる保護者にも環境教育が浸透しつつある。

このノウハウを生かして，公務でも行政と企業をつなぐえんたくんミーティングを開催し，鹿害を防ぐ樹木の保護についてアイデアを出し合っている。

(2)チャレンジ性

ネットワーク団体としてのコンセプトを維持しつつ，その役割について議論と試行錯誤を繰り返し，熱意のある人を応援する意味で「そそのかし」，相乗効果を期待して人と人をつないでいる。また，つないで終了ではなく，自ら参画してプロジェクトを遂行することも行っており，市民大学の企画や森のようちえんを中心とした講習会が進行中である。

(3)協働性

京都やましろ環境教育ネットワークは構成団体の中から 10 名を募って運営委員会を開催しており，運営自体が協働の賜物であるほか，木津川市での環境教育講演会では市役所と地元 2 団体と，スウェーデンから講師を招いた事業ではさらに北海道の NPO とも協働を行っている。

(4)持続性

京都やましろ環境教育ネットワークは任意団体であるが，会則を定め，定期的に運営委員会を開催して組織の方向性とプロジェクトの進捗等を確認している。また，森のようちえん関連では特定非営利活動法人こそだてママ net 設立に参画し，社会的役割を公式に担えるよう組織の準備に協力している。

木津川市鹿背山での森のようちえんプレの取組

[No.11]小学校育英会活動及びスポーツ少年団（学童野球）活動

【鳥取県　田中　純一】

①小学校育英会（≒ＰＴＡ）活動（会長３年目）
児童の健全育成を目的に，実効性（児童や保護者が効果を実感）と効率性（経費や労力の無駄の排除）の両立に取り組むとともに，学校や地域との結びつきを重視し，家庭だけでなく地域全体で子育てを行う風土づくりに努めている。
②スポーツ少年団（学童野球）活動（団長２年目）
児童の健全育成を目的に，技術以外の面（協調，自律等）を重視する風土づくりに努めている。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

参加のきっかけは「誰でもいいけど誰かがせねば」は自ら進んで担うよう日頃から我が子に説いている手前もあり，その思いで引き受けた。
現在，未来の地域を担う人材（今の子どもたち）育成を真の目的として活動中。
①小学校育英会
H25～H27 は副会長や事業部長を担い，様々な活動に携わりつつ要改善点のや新規事業実施の余地等について考えていた。
H28 に会長となり，それまで考えていた改善や新規事業などに着手。また，教職員や地域住民との交流を深めるため様々な会合に参加し，育英会の存在をアピールしつつ地域ぐるみで子育てを行う風土づくりに努めている。
②スポーツ少年団（学童野球）
団長就任後は，単に技術や勝敗のみでなく人間育成に注力できる監督探しを行い保護者以外の人材を招聘。また，団員減少は単に野球離れだけでなく，大会運営や団員保護者組織の体質にも問題があるのではと考え改善の必要性を提起。さらに，昨シーズン終盤には隣接チームとの合併を実現したり，地域に愛される団を目指して地元商店街の清掃ボランティアを実行するなど，今後，団がよりよい方向に進み児童を健全に育てられる組織となるよう努めている。

アピールポイント

(1)成果・効果
①小学校育英会
新規事業実施（保護者による給食センター見学会，児童による米子市役所探検，子育てに悩む保護者向け講演会実施等）→ニーズの掘り起こしとそれへの対応（結果，育英会の存在価値向上）
会合における過度な茶菓の提供の廃止→経費削減，透明性向上
役員会の時間短縮，議事録配布→各役員の家庭，仕事等との両立を促進
②スポーツ少年団（学童野球）
監督の適任者を招聘→人間育成の視点の植え付け
２団体の合併→双方の存続
(2)チャレンジ性
組織の透明性を高めるため，慣例的に行われてきたこのでも，無駄なこと，不健全なこのは改善した。
児童や保護者の満足度を高めるため＝組織の存在価値を高めるため，これまで行われていなかったことでも必要だと思ったことは積極的に実行した。（これらの例を（1）に記載）
(3)協働性
２団体ともそれ自体が組織員同士の協働により支えられていると考え，「皆が家庭や仕事を優先することを認めあう」「互いの貢献度を比べない（優越感や劣等感を抱かない）」ことの定着に注力した（これが成り立たないと不協和音）。
特に育英会活動では，教職員や地域住民の理解，協調は不可欠と考え，学校行事，飲み会，地元非営利団体の会合等に参加することで「育英会をよろしく＝子どもたちをよろしく」が根付くよう努力した。
また，児童の市役所探検（（1）に記載）では，企画持込みの際，実施目的の１つとして「地域密着・開かれた市政，市役所ファンを増やすチャンス」をアピールしたところ二つ返事で賛同いただき，全面的な協力を得た。
(4)持続性
２団体とも私が退いた後も存続することは明白だが，地域や周囲に理解され愛着を持ってもらえば，その存在価値はより高まる（そうでないと存在価値は低下）と考え，「前例の踏襲」「自らだけが満足すればよい」「自らの世代だけが順調ならよい」という考えを捨て，永続的に健全で前向きな団体となるような風土定着に努めている。

[No.12]「ここ de やる ZONE」「Code for AICHI」

【愛知県岡崎市畫田　浩一郎・中川　光・小川　貴之・野澤　成裕】

・『やりたい！』ことができる場の創出
「年齢」「地域」「職業」が混じり合うように，商店街の空き店舗を仲間とともに借り，地元の人と一緒にご飯を食べ，イベントを実施している。誰もが「一歩を踏み出せる」ための活動に取り組んでいる。
・シビックテックの活動推進
実際に社会課題を解決するために *ICT* 等のテクノロジーを活用し，様々な企業や団体と一緒に社会課題解決に向けた「実装」に取り組んでいる。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

商店主から昔の商店街やまちについて聴き交流を深める会を実施

長野県塩尻市　山田崇氏が代表を務める nanoda を訪問し，山田氏から「みんなおもしろがってくれるけど，誰もやらない。どうせお前達もやらないんでしょ」という言葉に激しく心を動かされたことが活動開始のきっかけです。
空き店舗を借り，活動をすることを上司に報告すると，上司による庁内への根回しやまちの重鎮との出会いにより，内部にも外部にも理解をしてもらいつつ活動を維持継続させています。
空き店舗を借り，2 年間で約 400 回のイベントを実施。半分程度がまちの人たち主導によるもので「やりたい！」をやれる場，そして，大学生から 80 歳近いまちの方まで幅広い人が集まるようになっています。
市役所を飛び出し，さらにプライベートで借りている空き店舗も飛び出し，まちと協働した取り組みにもつながっています。庁内外，市内外の幅広いジャンルの方と一緒に地域活性化，地方創生を目指し活動しています。
コミュニティ創出だけではなく，シビックテック推進を通して，社会課題を解決することを目指した団体とも協働し活動の幅も広がっています。様々な地域の課題を深掘りし，実証実験を通して世の中に実装をさせていっています。

アピールポイント

河川敷を活用したイベント内の「地域活性化」を語る会を実施

(1)成果・効果
・空店舗だった物件が 3 軒活用されるようになった
・2 年で約延 4,000 人超，約 400 回のイベントを実施し，多くの方に岡崎市に来てもらい，まちに 400 万円超循環した。
・活動を通して出会った人たちが自ら市民活動団体を立ち上げたり，自らも市民活動をスタートさせる方々やイベントを通して自信と周知につながり他自治体でも同イベントを開催する人等，「活躍したい」から「活躍している」人たちが増加している。
・メディアに 20 件超取り上げていただき，シティプロモーションにつながっている。
・業務外のつながりから本業に産官学連携を促し，事業をスタートさせた
(2)チャレンジ性
・愛知県では初めて公務員が空き店舗を借りて，活動を開始した。地域活動を通してプライベートの活動でありつつ，空き店舗清掃も実施し地域に進出したい方と一緒に第一歩を踏み出す。
・公共空間の利活用を通して，市内外の人とともに大型音楽フェスを河川敷で初めて実施。
・コミュニティ創出だけではなく，地域の課題を抽出し，社会課題を解決策を岡崎市だけではなく，様々な自治体と実証実験を執り進めている。
(3)協働性
「年齢」「職業」「地域」3 つの軸が交わる場を設けています。
多くの人が関わっています。地元商店街や行政の協力だけではなく，市外の方の協力も得ながら，公共空間の利活用を実施。商店街の公園，河川敷での音楽フェス，岡崎城の眼の前での音楽ライブ等，市内外の人と協働して地域活性化のプロジェクトを推進しています。""スペースハック""の概念で，スキルや場をシェアしていっています。
(4)持続性
空き店舗を活用した取り組みを 2016 年 1 月からスタートし，2 年半が経過。庁内に資金的な援助をしてくれる方も 40 名程度おり，規模を拡大しつつ，多くの方が参画してくれている。持続発展として，活動を通して新たな参画者や団体が創出されており，ミーム（文化的遺伝子）が広がっています。

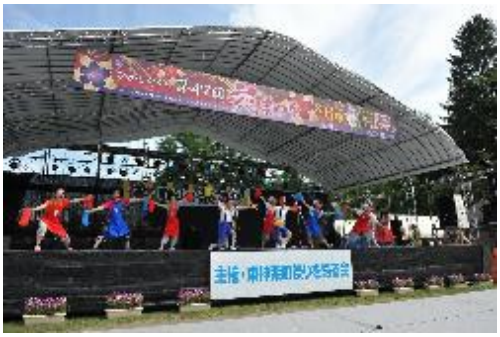
社会問題と自らのコマッタことを共有し社会課題を深掘り実施

[No.13]「花まつり」を北海道のイベントに！

【北海道東神楽町　鈴木　大介】

東神楽町の夏の最大イベントである「花まつり」を，地域だけでなく，北海道のイベントにすべく役場職員と町民の有志が実行委員会を立上げ，盛り上げています。
主な活動は，住民が主演し町民等がつくる『ひがしかぐら町びと楽芸会』やユニークで楽しい『顔ハメ看板大会』や『顔ハメでポン大会』を開催し，花まつりを盛り上げています。
活動は，今年で *14* 回目になり，出場者も年々多くなり大盛況となっております。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ



まちびと楽芸会①

夏の最大イベントである「花まつり」は，元々2日間日程で行われていましたが，財政難により1日開催に変更されました。そこで，役場職員と町民の有志で，町の最大イベントである「花まつり」を盛り上げたいと考え，東神楽町祭りを語る会を発足させ，小学校などの生活発表の町民版を作ろうと考え，北海道市町村振興協会の助成金を活用して，花まつりの開催期間を2日間に復活し，1日を東神楽町祭りを語る会実行委員会で運営を始めたのがきっかけです。
私は，当初の立ち上げ時に先輩職員から声を掛けられ，町民と共同でつくる東神楽町祭りを語る会に共感し，スタッフとして参加させていただき，『ひがしかぐら町びと楽芸会』の手伝いをさせていただきました。
設立から3年間で助成期間が終了し，花まつりも1日開催となり，その中で，東神楽町祭りを語る会も半日運営ではありますが，活動を続けてきているところです。
設立から10年目には，事務局次長に，今年は事務局長に就任し，会の開催運営や『ひがしかぐら町びと楽芸会』や『顔ハメ看板大会』の募集，プログラムの作成など，当日の進行を担当し出演者の送り出しを担当しております。

アピールポイント

まちびと楽芸会②

(1)成果・効果
普段の活動のなかではなかなか人前に出ることがない団体等が，このまちびと楽芸会に出場して日頃の成果を披露している。
特に子供達のダンス，バトン，フラダンスなどは年々出場者が増えている状況であり，また，大人のバンド演奏なども増えてきている。
以前は，町内にこのようなお披露目の機会がなかったため，町の活性化に大いに寄与していると思われる。
また，個人としては，日頃の公務だけでは知り得なかった町民と，実行委員会を通じて顔見知りになったことで，まちづくりの相談をしたり，意見をいただくことができるようになって，仕事がやりやすくなった。
(2)チャレンジ性
基本的には，性別・年齢にかかわらず，また先例にとらわれずどんなジャンルでも披露の場を提供し，町民等が主役の楽芸会を心がけています。
今年は，初めて空手の団体の型の披露もありました。
(3)協働性
実行委員会には，多様な職業や年齢の方が参加しており，それぞれが持っているノウハウを出し合って，観客に喜んでもらえるよう魅力あるステージになるよう取り組んでおります。
(4)持続性
実行委員会と出演者が一体となって，先例にとらわれず常に新たな試みを取り入れるよう心掛けている。
そのためか，出演者は年々増えており，出演時間が足りなくなってきているのが，現状である。
今後も限られた時間のなかで多くの方が出演できるよう工夫し，15回，20回と東神楽町の，さらには北海道のイベントになるよう運営していきたいと思っています。

顔ハメ看板

[No.14] 要約筆記を活用しよう！～新たなコミュニケーション手段の普及～

【鳥取県　矢部　薫】

音声が聞こえない，または聞こえにくい人に対し，主に講演会等の場で音声情報を文字に変換して内容を伝達する手段である「要約筆記」を実施している。
9年前から活動し，県内の要約筆記サークルの代表幹事をしている。
サークルでは，会員間の交流を図るためのレクリエーション活動や，一般の方への *PR* 活動などをしている。
また，要約筆記者養成講習会の講師も担当し，後進の養成にも携わっている。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

要約筆記をやっています

平成22年度に職場の掲示板で「要約筆記奉仕員養成講習会」受講生募集の情報を見て興味を持ったため，講習会を受講した。
約半年の間に計53時間の講習を受け，その後，要約筆記奉仕委員としての活動を開始した。現在は認定試験に合格し，要約筆記者として鳥取県内での各種講演会等の場で要約筆記活動を行っている。
当初受講した講習会終了後は県内の要約筆記サークルに所属し，会員相互の交流や要約筆記技術向上のための勉強会等を行い，通年で要約筆記活動に携わっている。
平成28年度からは所属サークルの代表幹事に就任し，要約筆記に携わる健聴者および難聴者の会員約30名とともに，上記活動に加え，要約筆記の知名度向上に向けたPR活動を実施している。
PR活動として，地元の公民館で行われる講演会で要約筆記のデモンストレーションを行い，聴覚障がい者が情報を得る手段は手話だけでなく要約筆記もあることを知ってもらうこととしている。
他にも，プラネタリウム上映時に行われる音声解説に加え，聴覚障がい者も楽しめるようプラネタリウム画面に字幕を付けて上映する活動を行っている。

手書き要約筆記と表示スクリーン

アピールポイント

(1)成果・効果
自らの周囲（職場や友人関係）に要約筆記の存在を知っている人が少なかったが，自身の活動を通して僅かずつではあるが要約筆記の認知度が高まってきた。
その結果として，要約筆記者養成講習会の受講者数も増加し，新たに要約筆記に携わる人も増えつつある。
サークル活動の中でも，難聴者の掘り起こしを行い，要約筆記を活用してもらえる機会が増えてきている。
(2)チャレンジ性
聴覚障がい者のコミュニケーション手段の一つである手話に比べて，要約筆記は認知度が低いのが現状である。
このため，サークル活動の大きな柱の一つとして，近年新たに要約筆記PR活動を積極的に行っており，これまで要約筆記の存在を知らなかった一般市民に対しての周知活動に取り組んでいる。
(3)協働性
主に要約筆記に携わる者で構成されているサークルではあるが，地域には聴覚障がい者およびその支援者等で構成されている「難聴者協会」や「ろうあ仲間サロン会」の存在もある。
これらの団体の活動で要約筆記が必要な時は，要約筆記サークルとして惜しむことなく支援を行い，各団体との情報交換も適宜行っている。
また，各団体との食事会などの交流活動も行うほか，それぞれの団体が主催するイベントに対して後援や共催の立場で協力することも多く，聴覚障がい者や要約筆記者相互の連携・協働の関係が築かれている。

要約筆記は屋外でも対応できます

(4)持続性
サークルは平成3年に設立し，活動のモットーが「細く長く」である。
今年度で27年目の活動となり，設立以降現在まで，毎月発行される会報は1号も欠かすことなく継続的に発行している。
また，サークル活動とは別に要約筆記者養成にも携わっている。現状では，増加傾向にある要約筆記要請に対して要約筆記者が不足している状況である。
このため，地域での要約筆記者養成講習会の講師を担当し，今後も要約筆記が継続して活用されるよう，要約筆記を担う人材の育成確保にも取り組んでいる。

[No.15] 街をサンタでいっぱいに！病気と闘う子供たちへプレゼントを贈る

【北海道更別村　小野寺　達弥】

イベント参加費にて，サンタ衣装やクリスマスプレゼントを購入し，病気と闘う子供たちへプレゼントを贈る取り組みです。
当日は，地元企業等の協力を得て開会式やミニライブを開催し，*100* 人以上のサンタクロースで街中を練り歩き賑わいを取り戻します。さらに参加者全員でプレゼントを購入し，病院や養護施設の子供たちへ届けます。
子供たちと街を元気にすることを目的として既に *5* 年を継続し，北海道全体に広げています。○○○

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

冬の屋外（帯広駅前）で
開会式とゴスペルライブ！

約 6 年前に滞納者の徴収業務に携わり，育児放棄等や様々な家庭環境をみて深刻な問題と感じていたころ，札幌の知人から「サンタラン」というイベントの参加案内があり，その趣旨に共感する。
私自身が母子家庭で育ち，クリスマスに楽しい記憶は無かったため，この取り組みで「子供たちに喜んでもらいたい，閑散とした街を元気にしたい」という思いになる。また北海道の雪景色とクリスマスの雰囲気が相乗効果となり街を元気にできるため，北海道の各市町村に広めることを目的とし自ら開催する。
募金だけのチャリティではなく，参加者自らがサンタクロースとなり楽しむイベントとして，仲間を募り実行委員会を設立する。
世界各地で開催されている「サンタラン」は，日本では大阪市で初開催され全国に広がりつつあり，北海道では札幌市と十勝（帯広市）が同時開催した。
十勝では毎年 100 人以上の参加者があり，全国唯一の方法として参加者全員でプレゼントを購入し，参加者全員で病院等へ贈り届けることを実現させた。
平成 25 年 12 月の初開催時に，難病で入院する子供たちに喜ばれ，親御さんから涙ながらに感謝されたことが忘れられず，今年で 6 年目を迎える。

病院にてクリスマスプレゼント
受け渡し後に記念撮影！

アピールポイント

(1)成果・効果
プレゼントを贈ることで，入院する子供たちや児童養護施設の子供たちに喜んでもらうことが嬉しく，参加者も難病や育児放棄などの問題について関心が高くなり，協力者や支援者が拡大している。
サンタ 100 人以上が市街地を練り歩くため，街中に賑わいを取り戻している。またサンタ衣装及びクリスマスプレゼント購入により，地元への経済効果（約 40 万円程度）があり，様々な企業から問合せが増加している。
全てを参加費と寄付金等で運営し，補助金は一切受けずに健全経営としている。運営は透明性を確保するため，収支決算を公表し参加者からも信頼を得ている。
(2)チャレンジ性
サンタ 100 人以上の訪問は過去に例は無いため，病院は感染症の問題，デパートでの購入は一般客の迷惑になると断られた経緯がある。
何度も訪問し熱意ある説明と行動により，現在の信頼関係が構築されている。
子供たちに何をプレゼントするか？
病院では食べ物は禁止，養護施設は同じものなど，その状況や年齢，男女に応じて選定が必要となる。
イベント参加者への説明方法，手順やルール作りは試行錯誤の積み重ねである。また病院や養護施設は，個人情報管理の徹底が必要となる。
(3)協働性
参加者のみならず，行政や地元企業の後援等が増加（約 20 社）し，寄付金やポスター掲示，無報酬でのライブ開催や飲み物の無料提供など，官民問わず幅広い連携・協力が実現できた要因になっている。
北海道では，十勝，札幌市，広尾町，函館市，旭川市，富良野市，稚内市で開催されており，事務局相互が連携し情報交換等により更なる取り組みの充実を実現している。
(4)持続性
参加者自身が楽しみ，子供たちの笑顔をみて，街を元気に。
参加者から，北海道十勝の冬の風物詩として，毎年の参加が楽しみと聞いている。
参加者全員でプレゼントを届ける方法は全国唯一であり，関係各社及び参加者等から理解を得られる限り，今後も本物のサンタクロースとして活動は継続する。

開催状況は後援企業の
地元新聞にも大きく掲載！

[No.16]嘱託警察犬になってしまった愛犬，ジョイと伴に！

【長野県　細田　淳】

私の飼育している，ラブラドールレトリバー（雌）の愛犬，ジョイが県警本部より嘱託警察犬として委嘱を受け，その指導手として活動をしている。警察からの出動要請があれば昼夜を問わず可能な限り出動し，主に高齢者やキノコ狩りの行方不明者の捜索，刑事事件の捜査等の社会貢献活動を行っている。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

　私は幼いころから動物が好きで，現在飼育しているラブラドールレトリバーの雌，ジョイは８頭目の犬になります。この犬種は，主に盲導犬として活躍し従順でおとなしいというイメージがありますが，とても活動的な大型犬で躾をしっかりしておかないと大変な事になります。知り合いに犬の訓練士いましたので，週に１回程度の犬の躾方教室に通っておりました。そんな折訓練士の方から，この犬は警察犬としての素質があるから是非警察犬にしてみないか，というお話がありました。その時は大変悩みましたが，自分の好きなことを通じて少しでも人のためになればと思い，愛しいジョイを警察犬にするべく訓練士の元へ約１年間預ける事となりました。警察犬になるためには，いろいろな条件があります。本県ではシェパード，ゴールデン・ラブラドールレトリバーなどの犬種に限られます。また県嘱託警察犬運営委員会という組織に入会し，県嘱託警察犬審査会という審査に合格して初めて警察犬として認められます。これらの条件をクリヤーして平成 28 年より嘱託警察犬の指導手として愛犬ジョイと伴に主に行方不明者の捜索等の活動を継けております。

アピールポイント

(1)成果・効果
超高齢化社会といわれる今日，認知症などのお年寄りが行方不明になるといったことがよく聞かれます。そんな時に鼻の捜査官といわれる警察犬が活躍するわけですが，本県では県警所有の警察犬の頭数が少なく，また現場まで県警の警察犬が行くのに時間がかかるため，主に嘱託警察犬がその任にあたっています。平成 28 年より今日まで，行方不明者の捜索など計７回の出動がありました。特に記憶に残っているのは，キノコ狩りに出た認知症のおじいさんの捜索に出たとき，夕刻には発見できず次の日の早朝から消防団も出て捜索を始め，無事発見されたときのおじいさんの笑顔が今でも忘れられません。
(2)チャレンジ性
現在本県では，30 頭程の嘱託警察犬が活動している。家庭犬の躾方教室から始まったことで自分でも信じられないが，さらに災害救助犬の資格取得にも挑戦してみたい。
(3)協働性
毎日の食事，排泄の世話，運動はもちろんのこと嘱託警察犬は地道な訓練をしなければなりません。あくまでも嘱託警察犬の指導手は個人的な活動ですので，嘱託警察運営委員会という組織の元，研修会や訓練の成果を競う競技会を行っています。また嘱託警察犬とはどんなものなのか知ってもらうために社会福祉協議会と協働しながらの広報活動や，所轄署との連携を図るための懇親会などを行っています。
(4)持続性
仕事はもちろんのこと，地区の公民館活動でナイターソフトボールや太鼓保存会に所属している私は 365 日 24 時間体制で警察からの出動要請に備えるというわけにはいきません。お世話になった訓練士さんの話によると，嘱託警察犬として活動する生涯のうち本当に成果が上がるのは一回有るか無いかということだそうです。警察からの出動要請はないほうが良いわけですが，活動の重要性や必要性を周囲に広めていくため，他の指導手とも情報交換をしながら，地道に訓練を重ねて行きたいと思います。

[No.17]子どもたちに大人気！波多野さんは「むし博士」！

【兵庫県朝来市　波多野　哲哉】

市内外各地域に出向き，昆虫採集，水中生物の観察など自然科学講座の講師を朝来市に転居以来 22 年続け，講演や企画イベントの総数は 200 回を超える。講師だけではなく，昆虫採集・標本作りはライフワークであり，県内では絶滅したと思われていた種を発見したり，県内初の迷蝶を採集したりして研究者を驚かせたことも。市内では「むし博士の波多野さん」と親しまれており，標本の点数は約 3 万点，高速の網さばきはもはや神業。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

沖縄県竹富島にて巨大ナナフシ GET！！

★「よそ者」「若者」「バカ者」が本当に地方を変えるのか？
★都会にいるより，田舎で暮らすほうが，「私」をより活かせるのでは？
★就職したら「アフター5 を楽しもう！」
★昆虫採集，スキー，釣り，キャンプ・・・アウトドアを満喫しよう！
ちょっと気負って，そして本気で趣味を追求しようと田舎暮らしが始まったが，現実そんなに甘くなかった。。。
○大学生活で完全に狂った体内時計。
○「働く」ということへの意識の低さ。
○意外と高かった文化の壁。
○コミュ力とは「同世代」に通用しても，幅広い世代には通用しないもの…

結果，就職 1 年目に辞表を書いて持ち歩くことに。が，先輩の一言が。
「哲くんは，今は最弱かもしれない。某ロールプレイングゲームで言えば，黒魔導士。しかし，レベルが上がればそのパーティーで最も強く頼りになる。そこまで自分を磨け。そこまで粘り抜け！！」
そして僕は，・・・辞表を破って自分を見つめなおす。。。
◆自分の最大の武器は，「昆虫」であることにあっさり行き着く！
子供たちに生まれ育った地域に誇りを持ってほしい！
趣味に「社会性」を持たせることは，意義深いこと。大人のサンプルとして生きる。

幼少のみぎりより･･･。

アピールポイント

(1)成果・効果
近年の生活様式や価値観など社会環境の変化に伴い，子どもたちが野山で遊んだり野外体験活動を行ったりする機会が減少しつつある中，多くの子どもたちにふるさとの自然の大切さ，生き物の素晴らしさを学ばせ，ふるさとの自然の中に喜びを見出すことのできる子どもを増やすことに尽力した。
(2)チャレンジ性
大学卒業後，神戸から祖父母が暮らす朝来市に移住し田舎暮らしをスタートする。観察会やイベント以外でも独自でフィールドワークを実施しており，数年前にはスズメバチに襲われ背中を撃ち抜かれ命の危機に瀕したことも。近年は生き物だけでなく山野草の造詣も深め，春には採集した野草を野外で調理して味わうという企画も実施している。
(3)協働性
自らの趣味であり，ライフワークである昆虫採集等で学んできた知識や，職員として携わった野外体験活動事業で得た経験を活かし，小学校の環境体験学習や地域団体(市内の地域自治協議会等)での自然観察会等様々な機会に講師兼スタッフとして貢献した。庁舎内外にも賛同者や協力者が多く，氏の呼びかけで多くのスタッフが事業に参画している。
(4)持続性
ライフワークで取り組んでいる野外活動や昆虫採集を通して，朝来市の自然の素晴らしさを五感を使って子どもたちに体験させる活動は多くの人々に支持されている。見知らぬ青年に「僕のこと憶えていますか？小学生の時に虫のこと教えてもらった○○です！」とまちで声をかけられることもしばしば。健康に留意していただき，今後も精力的に活動を続けていただきたい。

学校でのひとコマ･ふたコマ

[No.18]福智王四十八隊（ふくちおうよとやたい）

【宮崎県木城町　中村　宏規】

福智王四十八隊は，平成 20 年に結成されたダンスチームです。木城町比木神社の祭神である福智王を始めとした百済王伝説を題材として，中村宏規氏作詞作曲のオリジナルソングと踊りで百済王伝説を四方八方に拡げる活動をしています。木城ふるさと祭りの「福智王総踊り」，初盆を迎えたご家庭を回って踊りを披露する「お里盆まわり」，社会福祉施設等で踊りを披露しており，町の活性化と伝統文化の継承に多大な貢献をしています。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

百済王伝説 観客を魅了

ダンスチーム「福智王四十八隊」 楽曲交え熱演

「日向百済王伝説　千年王国」公演

百済王伝説とは，約 1300 年前に新羅と高句麗の連合軍によって国を追われた百済の王族は，日本に逃れて来ました。しかし，日本の内紛に巻き込まれ九州へと逃れる途中，嵐に見舞われ，父：禎嘉王と次男：華智王は日向市の金ヶ浜に，禎嘉王の妃：之伎野様と長男：福智王は高鍋町の蚊口浦へそれぞれ流れ着きました。その後，禎嘉王は美郷町の神門神社に，之伎野様は高鍋町の大年神社に，福智王は木城町の比木神社に，華智王は日向市の伊佐賀神社に祀られました。

本町を始め百済王伝説が残る 1 市 3 町（日向市・高鍋町・木城町・美郷町）には，千年の時を超え「師走まつり（神門御神）」や「大歳下り」「お里まわり」などの神事が脈々と受け継がれています。

この百済王伝説に着目し，オリジナル曲と踊りで伝説を広め，まちづくりと伝統文化の保存・継承に貢献したい思いました。

発足してから 10 年が経過しましたが，木城ふるさと祭りの「福智王総踊り」を確立させ，まつりの名物イベントになりました。また，初盆を迎えたご家庭を訪問し，演舞を披露して故人をしのぶ「お里盆まわり」もご家族から感謝の言葉をいただき，木城町の夏の風物詩となっています。

◇木城町立木城中学校

歌で戦没者を慰霊

慰霊歌「三百三十八柱」

アピールポイント

(1)成果・効果

木城ふるさと祭りの「福智王総踊り」，お里盆まわり，町内外の各種イベントや社会福祉施設での演舞の披露といった活動を 10 年継続しており，百済王伝説の継承とまちづくりに大きな成果を残しています。また，福智王四十八隊には，若者も多数所属しており，物語の継承と次世代育成に力を注いでいます。

(2)チャレンジ性

百済王伝説を基にオリジナル曲を作成しました。新しいものを創りだすことは，膨大なエネルギーを必要とします。福智王四十八隊の取組みが広く認知されるように各種イベントに積極的に参加してきました。また，10 周年を記念して「日向百済王伝説　千年王国」を公演しました。この記念公演には，町内商工業から多数の協賛をいただき，観客約 340 人から大きな拍手をいただきました。

(3)協働性

福智王四十八隊は，会長を始め，私以外の隊員は民間勤務又は自営業をされている方です。百済王伝説の継承と町づくりを目的として，隊員全員で協働して取り組んでいます。

(4)持続性

次世代への継承として，ジュニアチームが平成 29 年に誕生しました。このジュニアチームは，5 年後に子ども達が出演する「千年王国」を公演したいという目標を持っています。毎週水曜日にステップなど技術や表現力を磨いています。

2009年（平成21年）10月20日　宮崎日日新聞

福智王総踊り圧巻

木城でふるさとまつり

福智王総踊り圧巻

[No.19]初開催！！播州織産地博覧会（略して「播博（ばんぱく）」）

【兵庫県西脇市　播州織産地博覧会実行委員会（遠藤　香里，有田　圭佑，板場　逸史）】

市内へ移住してきた若手デザイナーや中心市街地の活性化を担うＴＭＯメンバーらと有志の実行委員会を立ち上げ，西脇市の地場産業である播州織を切り口に，人通りが少なく寂しくなった中心市街地を活性化させようと，播州織の生地マルシェ「播州織産地博覧会」（略して「播博（ばんぱく）」）を初開催。
我々職員も一市民としてメンバー入りし，*12* 回の実行委員会を重ね，市内外から約 *5,000* 人が来場する大イベントとなった。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

多くの人が行き交い賑わう播博会場

市が開催した中心市街地の活性化を協議するワークショップの中で，「織物の産地であるが生地を購入できる場所が少ない」との思いを共有したメンバーが，“播州織の魅力発信を通して，にぎわいが少なくなった中心市街地を盛り上げよう”と有志の実行委員会を立ち上げたのが始まり。
私たち職員も当初からメンバーに加わり，仕事終わりや休日の合間をぬって会議を重ねた。メンバーには播州織企業へ従事するため移住してきた若手デザイナーや隣町の商工会の職員なども加わり，職種も年齢も様々な 13 人が知恵を出し合った。チラシ作成や SNS の立ち上げなどの情報発信だけでなく，企業への出店依頼なども手分けして自分たちで行い，イベント当日は市内だけでなく，東京や富山，岡山など遠方からも約 5,000 人が訪れる大イベントとなった。
会場となった中心市街地は，かつては商店などが立ち並ぶ市内随一の繁華街であった。現在はほとんどの店がシャッターを閉じてしまっているが，イベント当日は絶えず人が行き交い「昭和 40 年代の賑わいやな」と昔を懐かしむ人も多くいた。
イベントは来年度以降も開催予定であり，さらに多くの市民を巻き込んでいきたいと考えている。

アピールポイント

(1)成果・効果
・人口４万人都市に約 5,000 人が来場し，市外，県外へ播州織や西脇市を発信することができた。
・市民が中心市街地のまちなみの魅力や播州織のポテンシャルを再認識することができた。
・市民有志で行ったという実績により，これまでまちづくり活動にあまり関わってこなかった市民が自らの考えと行動で成し遂げることができるというモデルとなった。
・空き店舗を利用した会場とすることにより，イベント後空き店舗をオフィスや店舗として利用したいとの申し出があった。
・また，イベントでできた人間関係が職務にもつながった。

空き店舗を利用した会場

(2)チャレンジ性
・産地企業の利害関係等により，アイデアとしてはあったものの開催が難しかったイベントを，職員をはじめ市民有志が熱意を持って進めることにより，これまで実行できなかった企画を初めて実行することができた。
・市役所業務で培った知識をそれぞれが発揮することができた。
・チラシ作成や SNS の立ち上げ，出展者への依頼やイベント内容まで全てを自分たちで考え，完全手づくりのイベントだった。

普段は人通りもなく、シャッター商店街となっている

(3)協働性
・市職員や民間企業者，移住者など職種も年齢も様々な人が同じ目的に向かって知恵を出し合いイベントを企画・運営した。
・イベントには市内の高校や近隣の大学等にも協力していただき，一緒にイベントを盛り上げることができた。
・商店街の中にある自転車屋と連携してレンタサイクルを実施するなど，商店街の人とも連携して実施することができた。
(4)持続性
・イベント後，実行委員会へ入りたいとの声もいくつか聞いており，さらに多様な主体が参画することが期待できる。
・来場者からぜひ２回目も実施して欲しいとの声が届いており，実行委員会としても市の庁舎が中心市街地に移転する３年後までは継続して開催することを決めている。

[No.20]東京の若者にふるさと鳥取の魅力を伝えたい！

【東京都　辻　堅太郎】

東京で鳥取県出身者等（20代～30代が中心）からなるグループを組織し，鳥取のクラフトやアート，食等をテーマとしたPRイベントし，鳥取ファンを獲得しています。また，鳥取出身者や鳥取ファンの交流会を開催しています。

そして，鳥取県内の自治体やまちづくり団体，商工会議所等が都内で移住や起業，特産品のPR等のイベントを開催する際に企画や運営，広報などの面で活動をサポートも行っています。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

鳥取のアートやデザインの魅力を紹介するイベント

東京で鳥取出身者とのつながりを持てる場が欲しい，ふるさとの魅力を首都圏の方々にもっと知ってもらいたいとの思いから団体を主宰し，活動を行うようになりました。

7年前から毎年，鳥取県のアンテナショップや都内のギャラリーなどと協働し，民藝・食・アートなどをテーマとした鳥取PRイベントや鳥取出身者の交流会を開催しています。SNSを通じた広報活動にも力を入れており，直近で開催したイベントでは，フェイスブックページへのアクセス数が8万を超え，若者を中心に多くの参加者が訪れました。また，イベント参加をきっかけとして鳥取を観光したり，鳥取のモノを購入するなど，鳥取を身近に感じて頂けるようになりました。全国紙や地元マスコミからも取り上げていただき，島根と混同されがちな鳥取の知名度が向上し，団体としての信頼も得られています。

近年では，我々の団体に対して鳥取県内の自治体やまちづくり団体などからお声がけいただく機会が増え，企画や運営，広報などの面で協力しながら都内でイベントを開催するようにもなりました。現在も故郷・鳥取への誇りや絆を大切にし，ネットワークを拡大・強化しながら活動を続けています。

アートやファッションの視点で鳥取の和紙の魅力を発信した企画展

アピールポイント

(1)成果・効果

毎年開催している鳥取PRイベントを通じて，若者を中心にリピーターなど根強い鳥取ファンを獲得しており，参加をきっかけに鳥取のモノを購入する方，さらには，実際に鳥取に旅行される方も出てきています。団体のメンバーは，活動する中で鳥取の魅力を再発見したり，ネットワークを深め，鳥取に移住する方も出てきています。

私自身も多様な職種の方々と一緒に活動している中で所属する自治体を身近に感じていただいたり，自治体の施策についても理解を深めていただいています。また，業務として広報を担当していましたが，情報発信や相手への説明能力について，活動を通じて高めることができています。

(2)チャレンジ性

東京で鳥取出身者が自らふるさとをPRする取り組みであり，これまでになかったアートなどの切り口で継続的に活動しています。SNSや口コミを活用し，地域の魅力を体感してもらいながら若者に効果的なPRが出来ています。

(3)協働性

我々の団体には，マスコミ，出版，ＩＴ，アーティスト，公務員，学生など多様な職種の方が参加し，各メンバーはパンフレットの作成やフェイスブックページの運営など，得意な能力を活かしています。

団体で独自にイベントを開催する際には，鳥取県のアンテナショップや都内のギャラリーやレストランなどと連携しながら実施しています。

また，鳥取県内の自治体，まちづくり団体などが東京でイベントを開催する際に，企画・運営・広報・集客等の面でサポートし，一緒に地域を盛り上げています。

(4)持続性

各メンバーが持つふるさとに貢献したいという思いやアイデアを実現できるようなイベントを企画しています。また，イベントを開催する際もメンバーが参加者と一緒に楽しめるようにしています。

所属自治体からはイベント等を実施する際の休暇取得について理解を得るとともに，上司や同僚にもイベントに参加してもらうことによって，取り組みへの共感や理解を深めてもらっています。

鳥取食材の薬膳や地酒などを鳥取の器で楽しんでいただいています

[No.21]静岡の自治会組織を第三者視点で支援「里山くらし LABO」

【静岡県　河村　将雄】

静岡市内の自治会等の地縁組織が抱える課題を第三者視点で支援。課題の見える化，数値化，全住民の巻き込みを基本とし，「地域住民による空き家活用」「自治会行事の見直し」「中学生以上全住民アンケート」「特産品補助金事業の事業承継」などを受託なしの自費で実施。これらの活動が評価され，共同通信社等による平成 30 年 2 月「第 8 回地域再生大賞特別賞」を受賞。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

自治会役員向けに講演（岡山県浅口市）

平成 11 年に静岡県入庁後，技術職として，一貫して農業基盤整備や農村振興に携わり，地域住民との協働事業を実施してきた。一方，3 年で異動を繰り返し，地域の方との関係が切れてしまうことを繰り返し，業務として地域と関わることへの限界も感じていた。
平成 26 年に静岡市主催の講座を受講したことをきっかけに，移住促進を行う地縁団体への支援を開始。しかし，移住促進では人口減少を止めることができないことに気づき，人口が減っても暮らしやすい地域づくりをすすめるため，講座の同期である池田氏と里山くらし LABO を結成した。
里山くらし LABO は，静岡市の中山間地域において，第三者として地縁組織に伴走しながら，地域の課題を一つ一つ解決する活動を行っている。人口減少が進む中山間地では，これまでと同様の活動は難しくなってきているが，地縁組織は変化することが苦手である。里山くらし LABO は，そんな地縁組織に対して，「自治会行事の見直し」「中学生以上全住民アンケート」「特産品補助金事業の事業承継」「地域住民による空き家活用」などにより，見える化や数値化，全住民の巻き込みなどで，変わるきっかけを提供している。

アピールポイント

全住民アンケート結果報告書を製作

(1)成果・効果
移住促進では，750 人の集落に 1 年半で 6 家族 20 人が移住し，集落の子供が 4 割増となった。補助金事業の事業継承では，若いママさんたちが継承し，特産品の売り上げは倍増。行事の見直しも徐々に進み，変えることが当たり前になりつつある。
これら活動が認められ，共同通信社と地方紙による「第 8 回地域再生大賞」にて特別賞を受賞。その結果，平成 29 年度静岡県職員知事表彰を受賞
(2)チャレンジ性
第三者という利点を活かし，地域の抱える課題に挑むスタイルで活動を行う。全国的に事例が少ない「中学生以上全住民アンケート」や「行事と組織の棚卸」を実施。全住民アンケートは結果報告書として製本し，全国の中間支援者や地域活動実践者へも提供。
住民主体の地域づくりを推進する「小規模多機能自治推進ネットワーク」に加入。モデル的な取り組みとして全国の行政職員に活動を紹介するなど，全国へと活動の幅を広げている。
(3)協働性
中山間地域の自治活動改善を活発化するため，平成 29 年度に静岡市の協働パイロット事業に提案し，「自治会組織がともに学び合う会」を開催。市自治会連合会や市幹部から継続を求める声があがり，平成 30 年度も継続実施。また，地縁組織に対する伴走支援活動が認められ，平成 30 年度に静岡市の人材養成講座「地域デザインカレッジ」の企画運営を市の依頼により実施中。市内の自治会役員向けの講座とし，自治活動による地域課題解決方法の仕組みづくりを教える。
(4)持続性
地域との信頼関係を重要視するため，支援期間は決めずに活動を行い，課題解決に向けた仕組みが作られるまで継続する。必要な経費は，地域からは実費以外の活動経費はいただかないが，行政や中間支援組織からは情報提供や講演等の謝礼をいただくことで活動経費としている。
活動を行う 2 人とも本業があるため，本業に影響のないように，県外からの講演は断るなど，活動範囲や対象を絞り込むことで対応し，活動の持続性を確保している。

第 8 回地域再生大賞特別賞を受賞

[No.22]都市型新スポーツ「バーチカルランニング」で地域を盛り上げる!

【愛知県　山肥田　徳文，平川　淳　愛知県名古屋市　寺田　隆彦】

「バーチカルランニング」とは，超高層ビルの頂上を目指し階段を駆け上がる階段垂直マラソン。日本ではまだ馴染みの薄いレースですが，ランニングの新ジャンルとして近年注目を集め，世界各地で年間約 300 大会が開催。この人気急上昇中の「バーチカルランニング」を名古屋で初めて開催しました。本格的アスリートからマイペースでゆっくり階段を登ってみたい方まで，広く「自分自身にチャレンジしたい！」方が主役の大会です。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

超高層ビル
「ミッドランドスクエア」
1,197 段を踏破せよ！

平成 27 年 3 月に，愛知県内の行政職員による勉強会「あいち地域づくり研究部」において，「大賞を獲った企画は実現する」と銘打った旅行企画コンテスト「あいちショートトリップコンテスト」を開催しました。行政職員が考えた企画から選ばれた大賞は，名古屋駅前に建つ 7 つの超高層ビルをすべて登るという「名古屋バーチカルチャレンジ」。
この企画を実現するべく，名古屋駅地区街づくり協議会，超高層ビル事業者，大阪あべのハルカスでバーチカルランニング「ハルカス・スカイラン」を主催している企業，メディア等に企画を提案。賛同を得たため，これら関係者にて大会の実行委員会を組織し，大会の準備・調整を進めました。そして，今年 4 月 30 日に「名古屋バーチカルランニング ミッドランド チャリティー スカイラン」として，名古屋で初めて大会を開催することができました。
来年以降も継続開催し，名古屋の名物行事となるよう盛り上げていきたいと考えています。将来的には，名古屋駅前に集積する超高層ビル群や他の地域の超高層ビルを舞台にしたシリーズ戦や，1 日で複数ビルを駆け上がるハードな大会とするなど，さらなる発展を目指して取り組んでいきます。

アピールポイント

6 歳から 73 歳と幅広い年齢層の
参加者がチャレンジしました！！

(1)成果・効果
抜群の交通利便性がある名古屋駅前で，超高層ビルの避難階段という既存の資産を活かし，バーチカルランニングの大会を開催しました。
この大会は競技時間が 6 分～30 分程度と短く，大会後に観光や飲食を行う時間が多く確保できます。さらに，10 秒ごとに 1～2 名が順次スタートをする競技形式のため，一度に多くの参加者が街に出て混雑を引き起こすこともありません。この特色を踏まえ，会場では観光 PR や飲食店の紹介を行うなど，地域の活性化につなげる取り組みも行いました。
また，障がい者アスリートを支援するため，大会の売上の一部を，2018 年愛知県で開催される知的障がい者のスポーツ大会「スペシャルオリンピックス 2018 愛知」に寄付しました。今後も障がい者アスリートを支援する仕組みの構築に取り組んでいきます。
(2)チャレンジ性
避難階段で競技を行うため，スタート地点とフィニッシュ地点でしか競技を観ることができません。そこで，階段の途中の様子などを撮影し，インターネットを通じて同時配信を実施。さらに，この映像を会場の大型スクリーンでも見られるように工夫しました。
この映像は YouTube にもアップロードされているため，参加者が後から観ることも可能です。
(3)協働性
実行委員会には，企業，メディア，行政職員が参画。スポンサー募集は企業，広報はメディア，消防署や観光協会等との調整は行政職員が行うなど，それぞれの得意分野を活かす形で連携しました。
また，ボランティアには企業の社員，大学・専門学校の学生，県や市町村の行政職員が参加していますが，配置場所を組み合わせることで交流が行われるように工夫しました。特に大学からは，学生が企業の社員や行政職員と一緒に取り組んだことで良い経験になったと，高い評価を得ました。
(4)持続性
行政からの補助金を受けることなく，参加料，スポンサー料，主催者負担で大会運営資金を確保できました。今後も持続性のある運営を目指します。

ゴールは名古屋を一望できる展望階。
完走後の爽快感は半端ない！

[No.23]こども・地域食堂みんなのおうち

【奈良県生駒市　泉　昂佑】

毎月 1 回のこども・地域食堂を開催。
こどもの貧困や孤食の解消はもちろん，地域での多世代交流やつながりづくり，地域愛着を育むことなどを目的としています。
そのため，参加対象は設けず，予約不要で誰もが気軽に参加できるのが特徴です。調理や後片付けはこどもも含めて参加者で行い，参加者同士のつながりを育んでいます。また，地域の寄附食材や人を積極的に紹介することで参加者への地域愛の醸成も目指しています。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

参加者みんなが家族のように協力するのが特徴です。

「まちが好き」。
活動を始めたのは自分の住むまちが好きで，何かおもしろいことができないかと考えたことがきっかけでした。何をやるかは決まっていなかったが賛同してくれた人たちと話し合い「こども・地域食堂」を運営することに決定しました。
メンバーそれぞれ最終目標は違いますが，活動を続けることで地域で認知され，つながりが作れることから，最終目標を達成するためのステップと捉えて運営していました。
まだ声もかかりませんが，あわよくば活動拠点となる空き家などを活動を知った人からもらいたいという希望を持って活動を進めています。
毎月，約 50 人が参加することや，毎回新しいことに挑戦していることなどから周りからの評価は「勢いのある団体」。こども食堂関連のイベントでの講師依頼やこども食堂とは関係のない地域のプレゼンイベントやマルシェなどにも出演依頼がかかるようになりました。
2 年目は，1 年目で得た経験やつながりをもとに新しいことにも挑戦中。地域全体で取り組む新名物を作るメニューコンテストや地域をつなぐ虹色レンジャーの結成，こども主体で作るまちのフリーペーパー作成など，やりたいことは尽きません。

アピールポイント

地域でがんばる人や学生、飲食店などと積極的にコラボ

(1)成果・効果
家からなかなか出ない子育て世代や高齢者がイベントに参加し，つながりを作って帰っていきます。そうした積み重ねで，地域全体へアプローチしています。また，以前から町でがんばっている人は個々ではいましたが，私たちのような若い世代が活動していることに刺激を受けて新しい活動が始まったり，コラボレーションが実現しました。活動を通して，イベントへの参加・参画など，公務でも生かせる人を巻き込んでいく力を身につけました。
(2)チャレンジ性
2017 年 8 月に初開催して以来，毎月必ず 1 つ以上は新しい地域のコンテンツを導入。寄附食材は地域の特産品を製造している会社や畑などからもらうようにしていました。地域の食材だということを紹介すると参加者からは「知らなかった」などの声が聞かれ，地域の魅力発見もできたと思っています。また会場を自治会や特養，飲食店などさまざまな場所で活動することや地域でがんばる人をイベントに招き，地域全体で活性化を目指しています。
(3)協働性
みんなのおうちを始める以前から，ピアサポーターや環境教育指導者，農業，ボランティアなど好奇心に任せてさまざまな活動に参加してきました。そうした経験を通して，知識や知恵をつけたり，つながりができたりして軸となる活動に生かしてきました。現在も県内 5 市町で子どもを対象に活動する団体の代表が集まり，さらに地域を盛り上げようとする団体（ネットワーク）を立ち上げ，意見交換などを積極的に行うようにしています。

子どもを対象に活動する団体が集まり地域をさらに盛り上げます。

(4)持続性
コアメンバーが仕事や子育てなどがあり活動量が限られているため，毎月 1 回の開催をベースにしています。私たちのこども・地域食堂のコンセプトは，参加者はみんな家族。そのため，食事の準備や後片付けなどは基本的に参加者全員で行い，コアメンバーの負担の軽減も果たしています。また，新しいメンバーを取り込むために，ジャンルは固定せずにさまざまなイベントも開催し，新規顧客層へアプローチを継続しています。

[No.24]地元にある遊園地で参加無料のキッズダンスコンテストを開催

【奈良県生駒市　村田充弘，澤辺誠】

「子どもたちに舞台に立つ楽しさを伝えたい」と生駒山上遊園地（奈良県）で参加無料のキッズダンスコンテスト「ラグーンフェスタ」を主な活動とする非営利法人を2人で立ち上げました。コンテストは8年目を迎え，のべ約9000人の動員実績があり，新聞，テレビ等多くのメディアにも取り上げてもらいました。また，非営利で始めた活動ですが，最近では企画会社からの委託を請け負い，イベント開催協力なども行っています。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

ステージで体いっぱい踊る子どもたち

【ダンスを発表できる機会が少ない子どもたちに舞台を作りたかった】
学校のダンス必修化やEXILE・AKB48などミュージックシーンでのダンス演出の増加など，ダンスは子どもたちに身近な存在になりました。ダンス教室へ通ったり，独学で始める子どもも増え，ストリートダンス人口は200万人とも言われています。しかし，人前でダンスを発表できる機会は決して多くありません。全国で行われるキッズダンスコンテストは中級者以上が参加できるものが多く，初心者には参加のハードルは高く感じられています。また規模が大きなダンス教室では自主企画で発表会を催していますが，規模が小さな教室や集まりは，夏祭りや自治会イベントなどでしか披露する機会がありません。こうした背景を踏まえ「ダンスを始めたばかりの子どもやもっと舞台に立ちたい子どもたちが気軽に参加できるコンテストを作り，一度でも多く舞台を経験してもらいたい」という思いから，任意団体ドリームプロジェクトを2010年に立ち上げ（2013年に非営利型一般社団法人に移行），参加無料・ジャンルフリーのキッズダンスコンテスト「ラグーンフェスタ」を開催し，現在8年目を迎えています。

コンテスト参加者の集合写真

アピールポイント

(1)成果・効果
子どもたちの成長につなげてほしいため，ラグーンフェスタは優劣の結果がでるコンテスト形式にしています。審査員からのコメントや改善点等を記載した「通知簿」を各チームにフィードバックし，参加者や保護者からも好評いただいていることから一定の効果があると自負しています。またこのイベントには，奈良・大阪・兵庫などの関西一円以外にも名古屋など中部地方からも参加があることや，コンテストの形態をとったことで優秀なチームの実績に「ラグーンフェスタ」の名称が入り，当該イベントや開催場所の生駒山上遊園地や生駒市のPRにも繋がるなどの効果があります。延べキッズダンサー1,600人170チーム・観戦者7,000人が参加し，読売・朝日・産経・毎日新聞，奈良テレビ，地元情報誌の他，各種WEB記事などにも掲載されたことも成果です。
(2)チャレンジ性
イベントを参加無料で実施するには活動資金が必要なため，クラウドファウンディングに挑戦したり，民間企業からイベント企画の請負など，様々なことにチャレンジし一定の資金を確保しています。なお，団体として独立した事業を展開するため，「誰かに助けてもらうのではなく，誰かを助けることのできる団体」であるように自治体などからの補助金等支援は一切受けていません。
(3)協働性
◇イベント当日は生駒山上遊園地までの移動手段である「生駒ケーブル」の利用者が増加している。
◇全国大会出場などの実績がある奈良市立一条高校ダンス部と協働でイベントを開催
◇プロバスケットボールチーム「バンビシャス奈良」と協働で，優勝チームが同チームの試合前に踊れる機会を設けた。
(4)持続性
◇毎年9月に開催し今年で8回目を迎えます。毎年のように定員30チームを上回る応募があります（過去3年実績で平均45チーム）。
◇民間企業から委託を受け奈良県が主催するイベントでキッズダンサーの募集事業を請け負ったり，初心者向けのキッズダンス教室の開催したりしました。

スタッフ全員の集合写真

[No.25]刀都の鬼才・小説家「風羅 真」による日本刀のまちの地域活性化

【岐阜県関市　中島　真也】

日本一の刃物のまち，また日本の「刀都」といわれる岐阜県関市の日本刀や関市近隣の歴史にちなんだ歴史小説を執筆し続けている。創作歴は８年ほどで，岐阜県文芸祭で２回入賞している。若者にも親しみやすい作風で，小説投稿サイトやツイッターなどでは，日本刀女子や歴史愛好家などの多くのファンもつきはじめ，執筆活動を「日本刀のまち」の地域活性化につなげたいと意気込んでいる。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

文化課で関伝日本刀鍛錬技術保存会の事務局を５年間務めたときに，刀匠や刀職の技に魅せられるとともに日本刀の持つ美しさにも強く惹かれ，何とかこの関市特有の歴史や文化を広く世間にアピールすることはできないかと考えていた。

もともと歴史小説を読むのが好きで，多くを読んでいたが，関市をはじめ地元が舞台の作品が少ないことから，関市の刀匠や歴史上の人物をモチーフにストーリーを思い描き，多くの人の目に留まれば一石二鳥だと思い立ち，執筆を始めた。関市史や郷土史などの資料を読み込み，実際の出来事に創作の要素を盛り込む独自のスタイルで書き続けている。

二作品目となる「信長の刀鍛冶」は，岐阜県文芸祭創作部門で次点となる優秀賞を獲得。室町時代の関の刀匠「若狭守氏房（わかさのかみうじふさ）」が織田信長の抱え鍛冶となった史実を題材としている。作品中では，信長が氏房の刀を気に入った架空のエピソードとして，信長の愛刀「へし切長谷部」と切れ味を比べる場面が臨場感たっぷりに展開される。刀を制作する工程や刀鍛冶の思いも詳しく描写されている。

昨今の刀剣ブームもあり，小説が関市を訪れるきっかけになればと期待する。

代表作「信長の刀鍛冶」と賞状を手に

アピールポイント

(1)成果・効果

関市には鎌倉時代から続く日本刀づくりの長い歴史があり，独自の伝統の技法が現在に至るまで脈々と受け継がれている。また，孫六兼元や和泉守兼定といった優れた刀匠も多く輩出している。この関市独特の文化でもある日本刀や刀匠について創作をすることで，その芸術性と歴史を市外，県外へもわかりやすく紹介した。

(2)チャレンジ性

難解ともいわれる日本刀の知識を幅広く吸収し，深く理解する努力をした。また，理解されにくい日本刀という芸術品を，信長などの歴史上の偉人が登場する小説を通して紹介し，最近の刀剣ブームに乗って親しみやすいものとするためのアイデアを絞った。

(3)協働性

「信長の刀鍛冶」執筆にあたっては，関伝日本刀鍛錬技術保存会や地域の刀剣愛好家などから資料を収集し作品に盛り込み，協働して作品づくりに励んだ。その協働をきっかけに，関伝日本刀鍛錬技術保存会主催により，市の日本刀資料館「関鍛冶伝承館」で同作品に登場する刀などがメインの展示となる「若狭守氏房（わかさのかみうじふさ）特別展」が開かれ，実際の刀剣や作品づくりの際に作成した年表などが展示され，地域の文化振興に寄与した。

中島さんの作品をもとに
開催された刀剣特別展

(4)持続性

上記受賞後も市役所の自主研究グループなどにおいて創作をし続け，インターネットの小説投稿サイトや SNS を駆使し，関市の刀剣を全国に向けて発信している。また，今年度も自主研究グループ「関鍛冶歴史塾」を主宰し，若手職員にも刀剣について知ってもらうよう活動している。

市の制度「ジシュ☆ケン」グループでのワークショップ

公務員よ！飛び出せ！やり出せ！頭出せ！

http://t-k-award.sakura.ne.jp/index.html

http://tobidasu-rengo.blogspot.jp/